

## 論点整理（事務局案）

## 1. これからの街づくりにおける佐賀駅周辺地区の役割について

- 平成35年の国体・全国障害者スポーツ大会開催に向けて、佐賀県では総合運動場・総合体育館を県内のスポーツの拠点として刷新する構想が検討されている。
- 佐賀駅周辺地区は、この新たなスポーツの拠点エリアと、文化施設が集積する城内の文化の拠点エリアの間に位置しており、九州新幹線西九州ルートの開業を控える中、南北をつなぐ交通結節点としての重要性が増すことが予想される。
- この2つの拠点エリアを有機的につなぐ南北軸を整備し、そのルート上に位置する中央大通り・街なか4核エリアへの人の流れを創出することが、佐賀市の街づくりにおける重要なテーマとなる。
- こうした視点から、佐賀駅北口・南口が果たすべき役割・機能について整理する必要がある。

## 2. 求められる交通機能について

- 以下に掲げる視点（案）を基に、中心市街地における交通機能のあり方を検討する。
  - ・ 中心市街地への人の流れを生み出す、来街者にもわかりやすい公共交通機能の確保
  - ・ コンパクトシティに相応しい、交通弱者の利用に配慮した公共交通網の整備
  - ・ 市文化会館を主会場とする学会・会議や、総合運動場などの新たなスポーツの拠点におけるスポーツコンベンションを想定した交通機能の確保
  - ・ 平地という本市の特性を活かした、自転車等の利便性の向上